



吉野っ子の力 (国語・算数の力, 学習と生活の様子)

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果より【2023年4月 6年生実施】



越前市吉野小学校

今年度は、国語・算数の調査が行われました。国語については、全国・県に比べても平均正答率が高いという本校の結果となりました。算数については、全国と比べて平均正答率が高く、県平均と比べて平均正答率が高い問題もありました。学校での授業の工夫や家庭での学習支援の効果が表れていると言えます。

国語

＜◎→特に良いところ ▲→伸ばしたいところ＞

①『学習指導要領の4領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」)における結果から』

◎「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で、全国・県の平均正答率と比較して上回っています。

②『特に正答率が高かった問題』

◎「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題において、全国・県の平均正答率を大きく上回っています。漢字を覚えるだけでなく、同音異義語について熟語の意味を理解させ、文の中で正しく使えるようにしていく指導の工夫が効果を上げています。

◎「話すこと・聞くこと」領域において、「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと」の中心を捉えることができるかどうかを問う問題で、全国・県の平均正答率を上回っています。話し合い活動の中で、相手の話をしっかりと聞き、質問などを通して、自分の考えを深めていく学習活動を多く取り入れたことが成果につながっています。

③『課題として』

▲「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において、「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」問題について、全国・県の平均正答率を下回り課題があります。

→提案する文章や説明する文章などの種類とその特徴について理解することができていなかったことが原因と考えられます。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の様々な学習活動において、話や文章の種類とその特徴を意識できるようにする指導を工夫していきます。

算数

①『学習指導要領の5領域(「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」)における結果から』

◎「数と計算」、「変化と関係」「データの活用」の3つの領域で、平均正答率が全国平均・県平均を上回っています。

②『特に正答率が高かった問題』

◎「変化と関係」領域において、「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる」問題では、全国・県の平均正答率を大きく上回っています。2つの数量について、表に表すことで関係を考える学習活動を重視したことがよい結果につながっています。

◎「数と計算」「データの活用」領域において、「「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる」問題の正答率が高く、よくできていました。「以下・以上・未満」を正しく理解させ、算数の時間だけでなく社会や理科でデータを扱う際にも活用するような合科的な学習を取り入れたことが成果をあげています。

③『課題として』

▲「図形」領域で、「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国や県平均を下回り、課題があるといえます。

→正方形や長方形、正三角形など小学校で学習する図形は多くあり、辺の長さや角の大きさに着目しその意味や性質について、正しく理解できていないことが考えられます。また、意味や性質を理解できていても、それらを活用し作図することを苦手に行っていることが考えられます。そこで、低学年においてはタブレットを用い、図形を重ねたり敷き詰めたりするような活動を取り入れ、辺の長さや角の大きさに自然と着目できるようにします。中・高学年においては、図形の意味や性質について正しく理解できるように、図形を言葉で説明するような活動を取り入れます。また、作図の際には、図形の性質を考えさせた上で、見通しをもって取り組めるように指導の工夫を行っていきます。

《家庭や生活に関すること》

- ◎ほとんどの児童が、毎日朝食を食べています。
- ◎同じくらいの時刻に寝起きている児童の割合が高いです。
- ◎地域の行事に進んで参加し、地域や社会をよりよくしたいと思う児童の割合が高いです。
- ◆国、県に比べると家庭で自主的に学習に取り組む時間が短いです。宿題の量を調節し、児童自身が進んで学習に取り組めるように、自主学習の取り組みを進めていきます。
- ◆本や新聞を読む時間が短い児童が多くなります。学校では朝に読書の時間を取り入れ、読書が習慣化されるようにしていきます。また、児童玄関など児童が行き交う場に新聞コーナーを作り、自然と新聞に触れることができるような取り組みを進めます。

《学校に関すること》

- ◎「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と回答する児童の割合が、全国・県平均と比べ高く、学習活動の中で、児童同士が考えの違いを認め合いながら学び合っています。
- ◎「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」など、他者と共により良く生活していくために大切なことをしっかり意識できています。
- ◎学習活動の中で、タブレットの利活用を進めた結果、タブレットなどの ICT 機器が学習に有効であると感じている児童の割合が高くなりました。
- ◎国語や算数の学習が大切であると考えている児童の割合が高く、授業の内容をしっかりと理解している児童の割合も高いです。
- ◎国語や算数で学んだことが将来社会に出たときに役に立つと感じている児童が多いです。
- ◆国語や算数が大切であり、将来役立つと感じている児童が多いにもかかわらず、「好き」と答える児童の割合が全国・県の平均に比べると低くなっています。授業改善を行い、できる楽しさを実感できるようにしていきます。

《自分自身に関すること》

- ◎将来の夢や目標を持っていると答えた児童の割合が高いです。
- ◎普段の生活で、幸せを感じている児童の割合が高いです。
- ◆「自分には、よいところがありますか。」という設問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国・県平均よりやや低い結果となりました。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という設問に対しても、全国・県平均よりもやや低い結果となりました。
→児童が自分の力に自信がもてるように「ほめる」をベースにした指導・支援をより一層充実させ、学校生活の中で、児童がまわりの人から「認められる」場面を多くするようにします。また、児童一人一人が活躍できるような学級・学校の活動を取り入れるようにします。さらに、担任以外の教職員も児童に積極的に関わり、児童のよさを複数の目でみるようにし、児童一人一人の成長を見守れるようにしていきます。

【児童のみなさんへ～自分たちの学ぶ力をさらに高めるために～】—学力調査の結果から—

- ①きまりを守り、まわりの児童に優しい吉野っ子がたくさんいます。これらの気持ちを大切にしていきましょう。
- ②失敗することを恐れない勇氣ある吉野っ子になりましょう。失敗から多くの事を学びます。
- ③宿題をきちんとやっている吉野っ子がたくさんいます。毎日の積み重ねが、国語や算数の基礎的な力をつけることにつながっていると思います。これからは、読書量も増やしていきましょう。
- ④国語の学習では、言葉と言葉の関係に目を向けて読むようにしましょう。また、自分の考えをしっかりと持って学習に取り組むようにしましょう。
- ⑤算数の学習では、問題をよく読み、何を求めるのかをはっきりとさせましょう。筋道を立てて考えた上で式を立てて、正確に計算できるようにしましょう。
- ⑥世の中で起こっている出来事に興味を持ち、新聞やニュースに目を通しましょう。